平成２６年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

<table>
<tr><td rowspan="2">指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="7">みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">宮崎県</td></tr>
<tr><td>①学校名</td><td colspan="7">宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">26～30</td><td colspan="8">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③対象学科名</td><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>５年</td><td>６年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="2">全国初の公立中等教育学校として，宮崎県全域より１クラス４０名（男子２２名，女子１８名）を募集し，前期課程１年生から後期課程６年生まで，計２２８名が在籍している。</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>40</td><td>40</td><td>38</td><td>38</td><td>36</td><td>36</td><td>228</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="10">中山間地域からグローバル・リーダーを育成する課題研究及び発展的実践</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="10">全国初の公立中等教育学校である特徴と，グローバルな社会課題が山積する中山間地域にある強みを活かし，「課題研究」に加えて，課題解決の考え方や手法を学ぶ「グローバル・リーダー・トレーニング」を設置することによって，国際的に関心が高い社会課題を発見し，それらを解決するモデルを考察・実践する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1全体</td><td>

(1) 目的・目標

中山間地域から，顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち，深い教養やコミュニケーション能力，問題解決力等を身につけ，地方から国際社会で活躍できる「野性味あふれるグローバル・リーダー」を育成する。

(2) 現状の分析と研究開発の仮説

本校は，地域や社会に目を向け行動している生徒の割合が高く，将来は国際的な仕事に就きたいと考えている生徒が全国平均を大幅に上回っているなど，グローバルな社会課題に目を向ける素養を有した生徒が数多く在籍している。また，本校が位置する宮崎県五ヶ瀬町は少子高齢化や人口減少，農林業を中心とした産業の停滞，経済格差といった課題が山積した地域であり，このような課題は日本や世界でも同様に見られ始めていることから，「超課題先進地域」だと考えることができる。

そこで，全国初の公立の中等教育学校である本校において，前期課程から後期課程まで６年間を見通した「総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習）」の教育カリキュラムを開発し，課題研究を軸としながら課題解決の考え方や手法を学ぶとともに，国内外の大学や企業との連携および実践を行うことによって，中山間地域から，顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち，その解決のモデルを考察・実践することで，将来，国際社会で活躍する「野性味あふれるグローバル・リーダー」を育成することができるだろう。

(3) 成果の普及

平成２７年度７月に授業公開を行い，関係機関よりＳＧＨ事業に関する方向性の確認やアドバイスを求める。また，生徒の研究論文（日本語・英語）を県内外の教育機関や図書館などに送付し，閲覧できる環境を作る。

</td></tr>
<tr><td>⑧-2課題研究</td><td>

(1)課題研究内容

特に，これまで本校が２０年間積み重ねてきた研究実績を活用して，中山間地域からグローバルな社会課題につながる４つのテーマ「環境」，「経済格差」，「エネルギー」，「高齢化」の中から，生徒が興味・関心を持つテーマについてローカル（地方）からグローバル（世界）につながる研究課題を設定し，研究を実施する。

《テーマ例》

「環境」：地元（五ヶ瀬町）とインドネシアの林業・バングラデシュの砒素公害の比較研究を通して，他のアジア諸国への環境対策普及方法についての研究

「高齢化」：地元（五ヶ瀬町）とスウェーデンの高齢化対策の比較研究を通して，日本独自の高齢化対策開発実践とアジア諸国への普及方法に関する研究

</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>⑧
-2
課
題
研
究</td><td>「経済格差」：バングラデシュのマイクロファイナンスの活用状況をもとに，地元（五ヶ瀬町）にその取組を取り入れ，農業の IT 化を図る方法についての研究
「エネルギー」：インドネシアと地元（五ヶ瀬町）の小水力発電開発の比較研究をもとに，日本の地方，及びアジア諸国へのエネルギー対策の普及方法についての研究
(2) 実施方法・検証評価
３年生から６年生までの総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習：週２単位，基本的に隔週木曜日に午後３時間で実施）において，課題研究を行う。４年生と５年生の総合的な学習の時間（週２単位　隔週木曜日に午後３時間で実施）において，課題研究を実施する。その際，国内外の大学や関係機関との連携を図り，海外でのフィールドワークを実施することによって，課題解決の実践につなげる。
また，生徒が国際的な課題を解決するための自主的活動団体（学びの森カンパニー：仮称）を設立し，運営することによって，野性味あふれるグローバル・リーダーを育成する。例えば，五ヶ瀬町の過疎化対策のために様々な視点（環境，経済格差，エネルギー，高齢化）から解決策を考え，関係する機関へ提案や実践を行う。
さらに，検証評価として，意識調査による生徒の変容の分析や進学実績，生徒が構築したビジネスモデルやプレゼンテーションおよび研究論文の評価を用いる。
(3) 必要となる教育課程の特例等
特になし</td></tr>
<tr><td>⑧
-3
上
記
以
外</td><td>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価
３年生から６年生までの総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習：週２単位，基本的に隔週木曜日に午後３時間で実施）において，問題解決の考え方や手法を学ぶ「グローバル・リーダー・トレーニング（GLT）」を設定し，段階的に実施する。具体的には，「国内外のリーダー像を学ぶ」「地方に散在する国際的に関心が高い社会問題を発見する」「課題解決につながる考え方や手法を学ぶ」「自分の考えをまとめ，他者と共有する手法（プレゼンテーション・論文）を学ぶ」の４項目に関するプログラムを設定し，国内外の企業や大学と連携を図りながら，講義および実習を行う。
また，検証評価として，社会貢献活動や留学を含む自己研鑽活動に取り組む生徒数や意識調査による生徒の変容および進学実績，ＧＴＥＣをはじめとする総合的な英語力の点数や英語各種コンテストへの参加数および入賞数などを用いる。
(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等
特になし
(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法
４年生の夏季休業中に，東京大学の留学生などが行う研修を受け入れ，課題研究についての意見交換を含む共同学習を行う。また，春季休業中に，オックスフォード大学現代日本研究所・ケンブリッジ大学東アジア学部日本学科に在籍している博士課程の学生等を対象にした「スタディーツアー＠五ヶ瀬」を受け入れ，英語を使った共同生活を通して異文化理解を深めるとともに，課題研究活動を共同で実施する。
６年生の夏季休業中に，東京大学の留学生やKIP（財団法人知日派国際人育成プログラム）の学生などを受け入れ，課題研究で取り組んできた内容を，英語を使って研究発表することによって，中山間地域からグローバルな社会課題を解決するための提言を行う機会とする。</td></tr>
<tr><td>⑨その他
特記事項</td><td colspan="2">本校は，平成６年の開校以来，「総合的な学習の時間（フォレストピア学習）」を設置し，６年間のゆとりと九州中央山地をはじめとする豊かな自然と文化を生かしながら，体験活動に基づく「知の総合化」を目指した課題研究を行ってきた。中でも，高千穂町土呂久地区の公害研究や小水力発電を中心としたクリーンエネルギーに関する研究，限界集落の実態に関する研究など，２０年間にわたる課題研究の実績がある。また，本校の卒業生の中には，海外のベンチャー企業や外資系企業へ就職している者や大学の研究者になっている者等がおり，課題研究において定期的に本校生徒への指導を行っている。</td></tr>
</table>

ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう	指定期間	26～30
学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校		

平成２６年度スーパーグローバルハイスクール　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:	109人	110人	人	人	人	人	人	0人
	目標設定の考え方:地域の清掃活動，行事ボランティア，施設訪問を継続して行っていく。								
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:	3人	4人	人	人	人	人	人	0人
	目標設定の考え方:SGHの取り組みを通して，グローバル・リーダーの素地を培い，自主的に留学又は海外研修に行く生徒数を増加させる。								
c	将来留学したり，仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	58.5%	61.5%	%	%	%	%	%	0%
	目標設定の考え方:SGHの取り組みを通して，留学や国際的に活躍したいと考える生徒数を増加させる。								
d	公的機関から表彰された生徒数，又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	0人
	目標設定の考え方:課題研究に関する各種コンテストに積極的に応募し，上位入賞を果たす。								
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	21.6%	19.4%	%	%	%	%	%	0%
	目標設定の考え方:GTEC，プレゼンテーション，ディスカッション等を活用して，4技能をバランスよく伸ばしていく。								
f									
	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
	目標設定の考え方:								

1’指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
a	国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	15.8%	18.9%	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:SGHの取り組みを通して，国際化に重点を置く大学へ進学する生徒を50%にする。								
b	海外大学へ進学する生徒の人数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	7人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:指定4年目以降に，毎年1人以上の海外大学進学者を出せるようにする。								
c	SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	−	−	%	%	%	%	%	%
	目標設定の考え方:SGHでの課題研究を通して，国際的に活躍できるグローバル・リーダー育成に関係する専攻分野を希望する生徒数を増加させる。								
d	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	−	−	人	人	人	人	人	人
	目標設定の考え方:課題研究をさらに発展，充実させるような意識付けを行うことで，留学，海外研修に行く卒業生を増加させる。								

2．グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方：海外でのフィールドワークを4年生で実施し，グローバルな社会課題についての理解を深める。								
b	課題研究に関する国内の研修参加者数	0人	0人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方：東大国際交流センターや九大ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター(SBRC)等との連携を図り，課題研究について，指導・助言をもらう。								
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	1校	0校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方：オックスフォード大学現代日本研究所の学生と共同研究を行い，指導・助言をもらう。								
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	10人	20人	人	人	人	人	人	80人
	目標設定の考え方：オックスフォード大，ケンブリッジ大，東大，九大の学生等を招聘したり，ビデオ会議で課題研究の指導・助言をもらう。								
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0人	10人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方：IT企業，NPO法人，自治体等と積極的に連携し，課題研究内容を深める機会とする。								
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数	0人	0人	人	人	人	人	人	15人
	目標設定の考え方：グローバルな社会課題に関する調査・研究を行い，その成果を各種コンテストで発表する。								
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む。）	0人	0人	人	人	人	人	人	3人
	目標設定の考え方：各学年に1名は帰国・外国人生徒（短期留学生を含む）を受入れ，国際的素養を養う機会とする。								
h	先進校としての研究発表回数	0回	0回	回	回	回	回	回	1回
	目標設定の考え方：課題研究に関する研究発表を行い，その成果を広く知ってもらう。								
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている　△一部整備されている　×整備されていない	×	×						○
	目標設定の考え方：全世界に本校のことを深く，幅広く知ってもらうようにする。								
j	本校で行った課題研究を実社会で実践した卒業生の数	1人	1人						10人
	目標設定の考え方：本校の課題研究を，卒業後に継続し，実社会に役立つ人材を育成する。								

＜調査の概要について＞

1．生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数（人）	230	228	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							